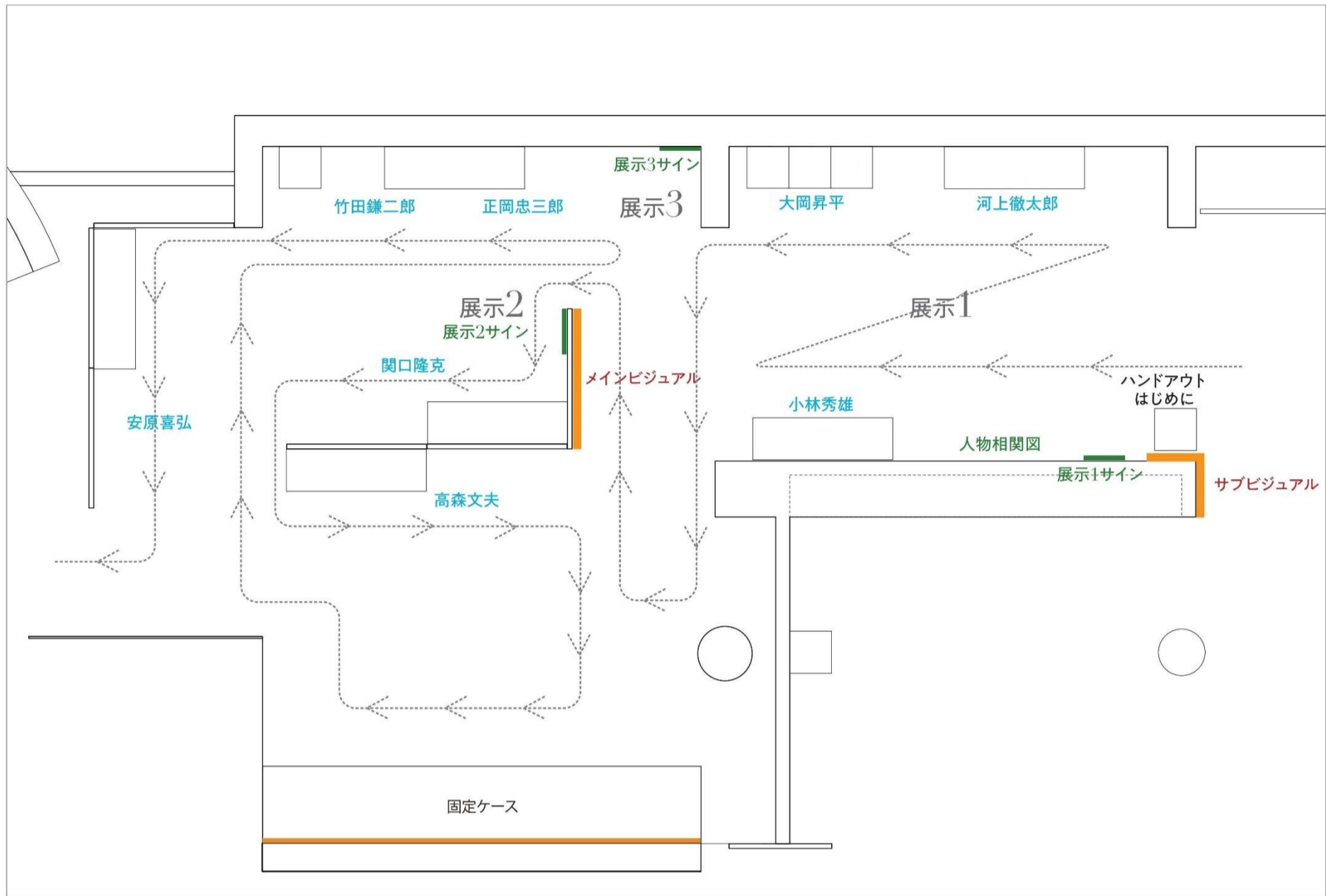


第18回テーマ展示 「君に会ひたい。——中原中也の友情」

2021年2月17日(水)～2022年2月13日(日) (特別企画展期間中を除く)

○順路図



○本展で取り上げている中也の友人たち

小林 秀雄 こばやし・ひでお 1902-1983

東京帝大卒業後、昭和4年に評論「様々なる意匠」で文壇に登場。ランボーの翻訳や『私小説論』、『ドストエフスキイの生活』等の著作を発表し、日本に文芸批評というジャンルを確立した。

河上 徹太郎 かわかみ・てつたろう 1902-1980

東京帝大卒業後、昭和7年に刊行した評論集『自然と純粹』で評論家としての地位を確立。小林と並ぶ近代批評の先駆けとなった。音楽を愛好し、多くの音楽評論も執筆している。

大岡 昇平 おおおか・しょうへい 1909-1988

成城高校を経て、京都帝大卒業後、スタンダールの研究に打ち込み、翻訳などを行う。戦後は出征中の体験を元に『俘虜記』を著し、以後作家として活躍。代表作に、『野火』、『レイテ戦記』などがある。

関口 隆克 せきぐち・たかかつ 1904-1987

東京帝大卒業後、昭和4年から文部省(当時)に勤務。戦後は、国立教育研究所所長や国立国会図書館の専門調査員、開成高校の校長などを務めた。

高森 文夫 たかもり・ふみお 1910-1998

東京帝大卒業後、昭和12年、第一詩集『浚渫船』を出版。昭和14年、満州へ渡り、映画製作に携わる。戦後は詩作をつづけながら、延岡市の教育長や東郷町の町長などを歴任し、若山牧水の顕彰にも努めた。

正岡 忠三郎 まさおか・ちゅうざぶろう 1902-1976

正岡子規の従兄弟。子規の妹・律の養子になり、正岡家を継ぐ。京都帝大卒業後、阪急電鉄に勤める。司馬遼太郎の小説『ひとびとの^{あし}足音』の主人公のモデルとなった。

竹田 鎌二郎 たけだ・かまじろう 1901-1972

麻布中学で青山二郎と同級生。昭和7年から昭和9年頃まで新宿で喫茶店「^{けやき}櫛」を営む。小説家志望で木版画の彫り師、刷り師でもあった。

安原 喜弘 やすはら・よしひろ 1908-1992

成城高校を経て、京都帝大卒業後、百科事典の編集・執筆や文筆活動を行う。戦後、玉川大学出版部などに勤務し、「文学草紙」に連載した原稿をもとに『中原中也の手紙』を出版した。

野田 真吉 のだ・しんきち 1915-1993

早稲田大在学中に中也と出会う。同人誌「半仙戯」に参加し、中也をはじめ詩人の高橋新吉、高森文夫に師事。大学卒業後にP. C. L. (現・東宝)に入社し、映画制作の道へ入る。戦後の東宝争議以後はフリーとなり、ドキュメンタリー映画の監督として活躍した。

小出 直三郎 こいで・なおさぶろう 1901-1972

昭和4年頃、中也と出会う。当時、成城高校のドイツ語教師。のちに成城高校の校長となる。戦後は東京医科歯科大学で教鞭をとる。『ドイツ語慣用句集』『よく使うドイツ語の言いまわし』(鹿子木コルネリアと共著)などの著作がある。

古谷 綱武 ふるや・つなたけ 1908-1984

外交官だった父の任地ベルギーで生まれ、小学生になるまでロンドンで育つ。成城高校に入学するが中退。「白痴群」同人。昭和11年、『横光利一』を刊行し、以後評論家として活躍。文学のみならず人生論、女性論、児童文学論に関する多数の著作がある。

中村 光夫 なかむら・みつお 1911-1988

本名、^{こば}木庭一郎。東京帝大卒。大学時代から「文学界」に評論を発表。同誌に連載した『二葉亭四迷論』で論壇に認められる。戦後は、『風俗小説論』『志賀直哉論』といった評論を通して、日本近代小説のゆがみを批判した。

○資料一覧

	種別	著者	資料名	制作・発行年月日	発行所	備考
1	原稿	中原中也	「小詩論」	昭和2(1927)年初頭制作(推定)		■
2	原稿	中原中也	「小林秀雄小論」(1枚目)	昭和2(1927)年初頭制作(推定)		■
3	図書	中原中也	『在りし日の歌』	昭和13(1938)年4月15日	創元社	■
4	原稿	中原中也	「河上に呈する詩論」	昭和4(1929)年6月27日制作		■
5	図書	中原中也	『山羊の歌』	昭和9(1934)年12月10日	文圃堂書店	■
6	冊子		『山羊の歌』葉	昭和9(1934)年12月	文圃堂書店	■
7	原稿	中原中也	「玩具の賦」	昭和9(1934)年2月制作		■
8	図書	大岡昇平	『俘虜記』(合本)	昭和27(1952)年12月30日	創元社	
9	図書	大岡昇平	『中原中也』	昭和49(1974)年1月15日	角川書店	
10	雑誌		「白痴群」第5号	昭和5(1930)年1月1日	東省堂	■
11	雑誌		「四季」第24号	昭和12(1937)年1月20日	四季社	■
12	書簡	関口隆克	中村稔宛書簡(封書)	昭和26(1951)年		■
13	雑誌		「四季」第29号	昭和12(1937)年7月20日	四季社	■
14	図書	高森文夫	『浚渫船』	昭和12(1937)年6月25日	由利耶書店	
15	雑誌		「四季」第32号	昭和12(1937)年12月20日	四季社	■
16	書簡	中原中也	安原喜弘宛書簡(絵はがき)	昭和7(1932)年8月8日消印		安原喜弘文庫 ■
17	書簡	中原中也	正岡忠三郎宛書簡(封書)	昭和2(1927)年10月30日付		■
18	書簡	中原中也	竹田鎌二郎宛書簡(封書)	昭和9(1934)年9月1日付		■
19	書簡	中原中也	竹田鎌二郎宛書簡(封書)	昭和9(1934)年9月25日付		■
20	日記	竹田鎌二郎	「日記帖8」	昭和8(1933)年12月17日 -同9(1934)年12月27日使用		■
21	原稿	中原中也	「羊の歌」	昭和6(1931)年2月下旬制作(推定)		安原喜弘文庫 ■
22	書簡	中原中也	安原喜弘宛書簡(封書)	昭和8(1933)年1月29日		安原喜弘文庫 ■
23	図書	安原喜弘	『中原中也の手紙』	昭和25(1950)年11月10日	書肆ユリイカ	
24	原稿	小出直三郎	「けんかでない絶交」	昭和41(1966)年1月14日制作		■
25	冊子		『『中原中也全集』月報』IV	昭和43(1968)年2月20日	角川書店	
26	雑誌		「半仙戯」第2冊	昭和8(1933)年6月10日	半仙戯社	
27	図書	野田真吉	『野田真吉詩集 奈落転々』	昭和53(1978)年1月28日	創樹社	
28	図書	野田真吉	『中原中也 わが青春の漂泊』	昭和63(1988)年12月27日	泰流社	
29	図書	古谷綱武	『劣等感を生きる』	昭和35(1960)年11月10日	青春出版社	
30	雑誌		「文学界」第2巻第4号	昭和10(1935)年4月1日	文圃堂書店	■
31	図書	古谷綱武	『作家の世界』	昭和14(1939)年5月20日	赤塚書房	
32	図書	中村光夫	『今はむかし <ある文学的回想>』	昭和45(1970)年10月28日	講談社	
33	図書	中村光夫	『二葉亭四迷論 外二篇』	昭和11(1936)年10月23日	芝書店	
34	雑誌		「文学界」第3巻第6号	昭和11(1936)年6月1日	文学界社	■
35	図書	フロオベル／ 中村光夫訳	『ジヨルジュ・サンドへの書簡』	昭和10(1935)年1月20日	文圃堂書店	
36	書簡 (軸装)	中原中也	安原喜弘宛書簡(封書)	昭和9(1934)年12月30日		安原喜弘文庫 ■
37	原稿 (軸装)	中原中也	「薔薇」	昭和9(1934)年12月30日制作		安原喜弘文庫 ■

■ = レプリカ